



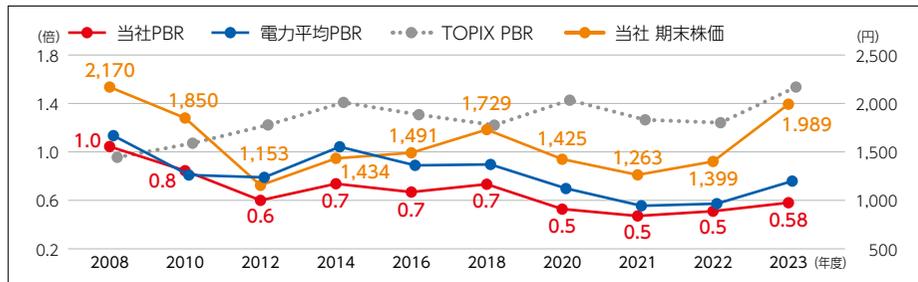
資本コスト・株価を意識した経営の実現(PBR向上に向けて)

中部電力は、PBRの向上に向けて、現状分析に基づく対策に取り組んでおり、「ROIC経営の深化」を重点取組項目として位置付けています。グループ全体での徹底した経営効率化施策の拡大や市場対応力の強化に取り組み、今年度以降も一定の利益を獲得できる蓋然性が高まったことなどから、資本コストの水準も踏まえ、中期経営目標に掲げるROICの水準を3%から3.2%に引き上げました。今後も資本コスト・株価を意識した経営を実践するとともに、株主・投資家の皆さまとの積極的な対話や適切な情報開示、株主還元施策の充実により、皆さまのご期待に応えられるよう努めていきます。

現状の分析

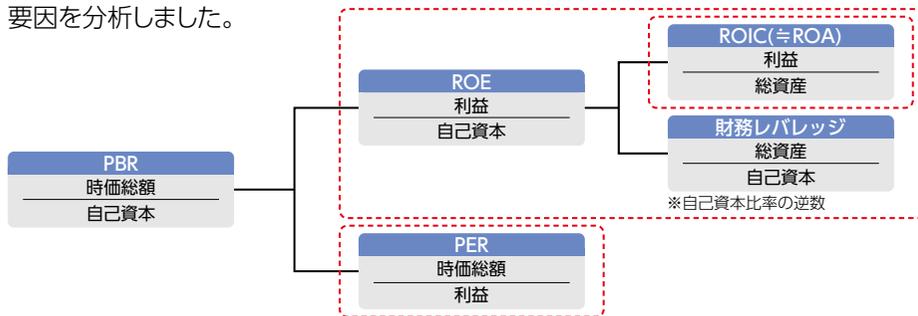
[PBR推移]

当社のPBRは、東日本大震災後、浜岡原子力発電所停止などによる業績悪化等により低下。2023年度は利益水準の回復・株価の上昇はありましたが、PBRは0.58倍と依然1倍を下回っています。



[分析手法]

PBRを大きくROE(自己資本利益率)とPER(株価収益率)に分解したうえで、ROEをROIC(≒ROA)と財務レバレッジに分解することで、当社PBRが低位に推移している要因を分析しました。



[分析結果]

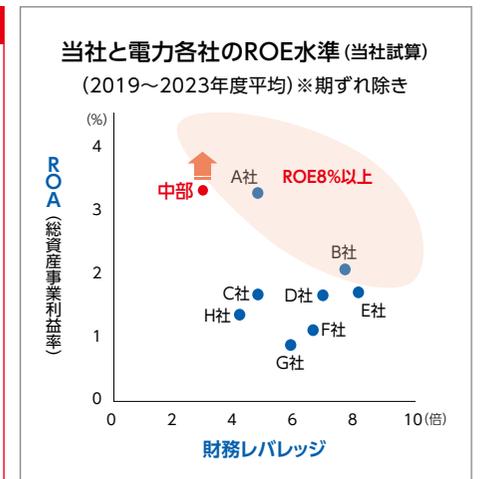
電力事業の特性やボラティリティの高い事業環境を踏まえたステークホルダーの皆さまの懸念・リスク認識といったROEとPERそれぞれの主な低位要因を特定しました。

ROE	
ROIC(≒ROA) <ul style="list-style-type: none"> 送配電事業の他事業比での利益率の低さ <ul style="list-style-type: none"> ※ただし、ROICは資本コスト(WACC)以上を確保 	財務レバレッジ <ul style="list-style-type: none"> 財務レバレッジの電力セクターにおける相対的な低さ (格付水準の維持やリスク対応資本など財務健全性の確保によるもの) <ul style="list-style-type: none"> ※電力セクターで最も高い自己資本比率を確保

PER

株主・投資家の皆さまの懸念やリスク認識等につながると思われる要因

- 電気事業の競争政策を起因とした収益性への懸念
- 原子力事業における不透明性
- 脱炭素に対する社会的要請
- 戦略的投資を通じた収益基盤確立の蓋然性
- コンプライアンス事案における社会的信用低下への懸念
- ESG情報の開示充実要請





資本コスト・株価を意識した
経営の実現 (PBR向上に向けて)

PBR向上に向けた対応の方向性と取り組み

[ROEの向上:ROIC経営の深化]

●各事業の自律的な経営と最適な資源配分・モニタリングにより、資本コストを上回る資本効率を目指します。

要素	観点	対応の方向性	足元での具体的取り組み
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">ROIC</div> <div style="text-align: center;"> <p>WACC</p> <p>×</p> <p>財務レバレッジ</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 利益率の向上 ■ 資産効率の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ コストダウン推進と適切な販売価格による安定的な収益獲得 ✓ 資産の稼働率向上、不要資産削減 ✓ 経営資源配分の最適化 	<ul style="list-style-type: none"> ● 中部電力ミライズにおける標準料金メニュー見直し ● 水力発電量の増電(利用率向上等) ● 政策保有株式の縮減 ● 投資環境に応じた投資計画の見直し(グローバル事業等における投資厳選等) ● 中長期の最適な資本構成について継続検討
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 財務レバレッジの適正化 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 格付、リスク量、資本効率を踏まえた資本構成 	

[PERの向上]

●株主・投資家の皆さまとの積極的な対話や開示などを通じ、当社の方針や取り組みをご理解・ご評価いただけるよう努めてまいります。

要素	観点	対応の方向性	足元での具体的取り組み
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">株主・投資家の 予見性向上^{※1}</div> <p>※1 WACC低減にも寄与</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 資本市場との対話、開示 ■ 業績のボラティリティ低減 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 投資家との対話、開示充実 ✓ リスク管理高度化による収支安定化 	<ul style="list-style-type: none"> ● 機関投資家・アナリストとの対話(2023実績) <ul style="list-style-type: none"> ▶ 決算・経営計画説明会開催(4回) ▶ IR部署によるミーティング(150回) ▶ 社長・CFO・社外取締役等によるミーティング(49回)
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">株主還元</div>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 株主還元方針に則った着実な還元 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 安定配当と配当性向30% 	<ul style="list-style-type: none"> ● 電源調達におけるリスクヘッジ(オプション・スワップ取引等) ● 増配公表(2024年度予想:60円/株)
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">ESG経営 の推進</div>	<ul style="list-style-type: none"> ■ ESG経営推進による企業価値向上・経営リスク低減 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ESG各項目に係る着実な取り組みと非財務情報の開示 	<ul style="list-style-type: none"> ● 監査等委員会設置会社への移行 ● 役員報酬への気候変動対応項目^{※2}の組み込み <p>※2 CO₂排出量「GXリーグに登録した2025年度目標」に対する達成度合い</p>